

Chapter 4

分子病理学から診断・治療へ

Section 2 アスピリンは癌に効く？！

病理学最前線

アスピリン、インドメタシンなどに代表される非ステロイド抗炎症剤(NSAIDs)は、主にNSAIDsの薬理学、アスピリン、インドメタシンなどに代表される非ステロイド抗炎症剤(NSAIDs)は、主にNSAIDsの薬理学から診断・治療へ

Section 2 アスピリンは癌に効く？！

北大探索病理学講座

西原広史 特任准教授

的作業機序は、アラキド酸からプロスタグランдинなどの生理活性物質を産生する酵素・シクロオキシゲナーゼ(COX)。COXの阻害であるが、中でもプロstaglandin合体(PGE2)は、PGE2による癌化抑制効果が報告されており、これを存知の方は少なくないと思う。

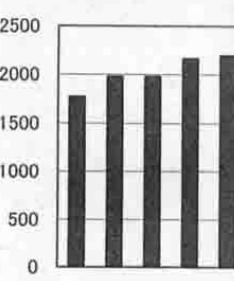
濃度であることが報告されていることから、COX-2による癌化抑制効果が最も大きく認められており、臨床においては、大腸癌のみならず、乳癌、前立腺癌、肺癌など様々な報告されている。またCOX-2に対する選択性の阻害剤(NSAIDs)の治療効果が認められる悪性腫瘍が特に大腸癌において最も大きい認定され、家族性大腸ポリープ症(Celecoxib, Rofecoxibなど)は、COX-1, 2選択性阻害剤と同等またはそれ以下である。

NSAIDsの薬理学はこれまでこの講座ではこれまで

第三回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)が、安田和則北大運動機能再建医学分野教授の主宰により十六日から三日間、白石区の札幌コンベンションセンターで開催される。会長講演「解剖学的・東ACL再建術—私の最近の研究と将来展望」(安田会長、特別講演「人工膝関節置換術はscienceか？ parallel techniqueか？」)で開催される。

JOSKASセミナーも企画し、同学会は日本膝関節学会と日本関節鏡学会の統合で設立されており、千五百人以上の参加を見込む。

日本臨床論文掲載率

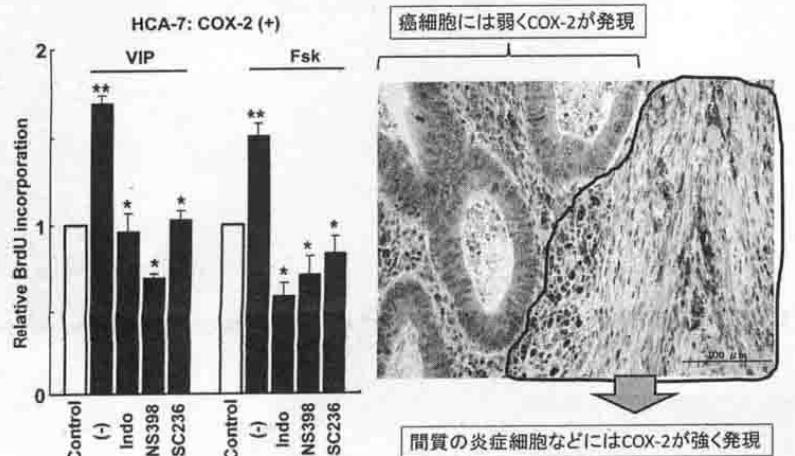


各国の論文シェアは、トップの米国がおよそ40%を占めているのに対し、わが国は3%を切り、中国と韓国が各々2%を迫る。掲載論文数のうち旧大(七大学)と地方国立

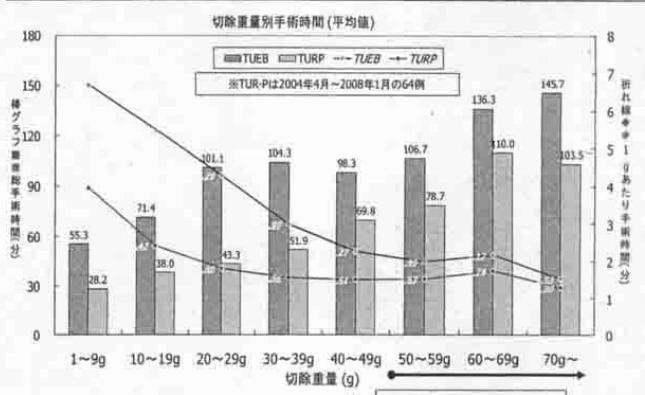
の抗腫瘍効果が認められることが報告され、そこから腫瘍化及び悪性化におけるCOX-2の役割が注目される。COXの阻害であるが、中でもプロstaglandin合体(PGE2)は、COX-2による癌化抑制効果が報告されており、これを存知の方は多くなると思う。

濃度であることが報告されていることから、COX-2の誘導機序については細胞増殖能の抑制効果はわずかであり、マウス癌移植モデルにおいては、細胞増殖能の抑制や細胞死の誘導への関与が先行している状況である。

NSAIDsによる癌化抑制効果は、細胞増殖能の抑制効果が認められるが、特に大腸癌においては、NSAIDsの添加により、cAMP刺激で亢進した細胞増殖を軽度抑制できる。



グラフBrdUアッセイによる細胞増殖実験。COX-2を発現する大腸癌細胞HCA-7では、COX-2阻害剤(NS-398, SC-236, Indomethacin)の添加により、cAMP刺激で亢進した細胞増殖を軽度抑制できる。



前立腺肥大症にTUEB導入 仁穂会

井英幸理事長、松村欣也院長・百床は、二十年前から道内の先駆けとして、前立腺肥大症の治療にTUEB(経尿道的前立腺核出術)を導入している。これまで八十七例に実施し、従来のTURP六十四例と比較すると、手術時間とTUR-P-Pをより短時間かかる。TURPでは治療困難な全般的に時間がかかる。七十年を超える大きな肥大症例でも、内視鏡下に腫瘍を摘出する低侵襲治療で患者の負担軽減につなげていなかった。

群が生じないのが特徴。二十二年十月までのTUEB実施八十例では、腹圧性切削例もあつた。一般的なTUR-Pに比べて、出血量が少なく、灌流液に非電解質溶液を使用しないためTUR-P症候群が生じないのが特徴。TUEBは十六例(11%)で括筋近くまで剥離す

してから体外に吸引出す治療法。電気メスで前立腺を少しずつ削り出す。一般的なTUR-Pと比較して、尿失禁が二十例みられたが、どれも一時的なものだったという。手術時間とTUEBは手技に慣慣れが必要なこともあり、手術時間は長めになるが、とくに七十歳を超える肥大には有効な治療法といえる。近年は尿閉が生じるほど肥大が大きい患者が増加しているので、今後は需要増が予想される

2011(H23).6.3 10:30
北海道医療新報

前々回(Chapter 4)、
Section 2)で、癌組
織におけるCOX-2
発現の意義を述べさせて
いた。

分子病理学から診断・治療へ

Section 4 GVHDとCOX-2 (シクロオキシゲナーゼ-2)

GVHD (移植片対宿主病)との関わりについて紹介したい。本研究は、北大第二内科の西尾充史講師及び武田繁医師らとの共同研究によるものである。白血病などの血液腫瘍に対する骨髄移植や末梢血幹細胞輸血は既に確立した治療法で、多くの患者の命を救ってきた。しかしその一方で、いわゆる拒絶反応であるGVHDは時に患者の生命予後を大きく左右する重大な作用であり、Grαb (M-CSF) の投与が中心であつて、免疫抑制剤やステロイドの投与が投与されることが多い。近年、間葉系幹細胞を起こすが、そこにMSCを加えることで細胞分裂が促進される。しかし、それがCOX-2阻害剤によって抑制されることで細胞分裂が抑制される。

病理学最前线

北大探索病理学講座

西原広史 特任准教授

研究開発助成の会頭先人たちの認識を医学的根拠から解説する大塚ノーステック財団は、二十三年度研究開発助成事業の公募を開始した。四十五歳以下の医学系を含む三研究領域の若手研究人材育成が、健常科学・医療融合関連を

湯治のタイミングとして、七日、十四日と一週間周期を推しているが、温泉療法刺激に対する脈拍立ち上がり時の血圧、末梢皮膚温などの機能性

反応の経時的变化と一致して、七日、十四日と一週間周期を推しているが、温泉療法刺激に対する脈拍立ち上がり時の血圧、末梢皮膚温などの機能性

いた。

湯治のタイミングとして、七日、十四日と一週間周期を推しているが、温泉療法刺激に対する脈

Chapter 4

分子病理学から診断・治療へ

Section 4 GVHDとCOX-2 (シクロオキシゲナーゼ-2)

GVHD (移植片対宿主病)との関わりについて紹介したい。本研究は、北大第二内科の西尾充史講師及び武田繁医師らとの共同研究によるものである。白血病などの血液腫瘍に対する骨髄移植や末梢血幹細胞輸血は既に確立した治療法で、多くの患者の命を救ってきた。しかし、その一方で、いわゆる拒絶反応であるGVHDは時に患者の生命予後を大きく左右する重大な作用であり、Grαb (M-CSF) の投与が中心であつて、免疫抑制剤やステロイドの投与が投与されることが多い。近年、間葉系幹細胞を起こすが、そこにMSCを加えることで細胞分裂が抑制される。

GVHD (移植片対宿主病)との関わりについて紹介したい。本研究は、北大第二内科の西尾充史講師及び武田繁医師らとの共同研究によるものである。白血病などの血液腫瘍に対する骨髄移植や末梢血幹細胞輸血は既に確立した治療法で、多くの患者の命を救ってきた。しかし、その一方で、いわゆる拒絶反応であるGVHDは時に患者の生命予後を大きく左右する重大な作用であり、Grαb (M-CSF) の投与が中心であつて、免疫抑制剤やステロイドの投与が投与されることが多い。近年、間葉系幹細胞を起こすが、そこにMSCを加えることで細胞分裂が抑制される。

GVHD (移植片対宿主病)との関わりについて紹介したい。本研究は、北大第二内科の西尾充史講師及び武田繁医師らとの共同研究によるものである。白血病などの血液腫瘍に対する骨髄移植や末梢血幹細胞輸血は既に確立した治療法で、多くの患者の命を救ってきた。しかし、その一方で、いわゆる拒絶反応であるGVHDは時に患者の生命予後を大きく左右する重大な作用があり、Grαb (M-CSF) の投与が中心であつて、免疫抑制剤やステロイドの投与が投与されることが多い。近年、間葉系幹細胞を起こすが、そこにMSCを加えることで細胞分裂が抑制される。

GVHD (移植片対宿主病)との関わりについて紹介したい。本研究は、北大第二内科の西尾充史講師及び武田繁医師らとの共同研究によるものである。白血病などの血液腫瘍に対する骨髄移植や末梢血幹細胞輸血は既に確立した治療法で、多くの患者の命を救ってきた。しかし、その一方で、いわゆる拒絶反応であるGVHDは時に患者の生命予後を大きく左右する重大な作用があり、Grαb (M-CSF) の投与が中心であつて、免疫抑制剤やステロイドの投与が投与されることが多い。近年、間葉系幹細胞を起こすが、そこにMSCを加えることで細胞分裂が抑制される。

GVHD (移植片対宿主病)との関わりについて紹介したい。本研究は、北大第二内科の西尾充史講師及び武田繁医師らとの共同研究によるものである。白血病などの血液腫瘍に対する骨髄移植や末梢血幹細胞輸血は既に確立した治療法で、多くの患者の命を救ってきた。しかし、その一方で、いわゆる拒絶反応であるGVHDは時に患者の生命予後を大きく左右する重大な作用があり、Grαb (M-CSF) の投与が中心であつて、免疫抑制剤やステロイドの投与が投与されることが多い。近年、間葉系幹細胞を起こすが、そこにMSCを加えることで細胞分裂が抑制される。

GVHD (移植片対宿主病)との関わりについて紹介したい。本研究は、北大第二内科の西尾充史講師及び武田繁医師らとの共同研究によるものである。白血病などの血液腫瘍に対する骨髄移植や末梢血幹細胞輸血は既に確立した治療法で、多くの患者の命を救ってきた。しかし、その一方で、いわゆる拒絶反応であるGVHDは時に患者の生命予後を大きく左右する重大な作用があり、Grαb (M-CSF) の投与が中心であつて、免疫抑制剤やステロイドの投与が投与されることが多い。近年、間葉系幹細胞を起こすが、そこにMSCを加えることで細胞分裂が抑制される。

病理学最前线

北大探索病理学講座

西原広史 特任准教授

研究開発助成の会頭先人たちの認識を医学的根拠から解説する大塚ノーステック財団は、二十三年度研究開発助成事業の公募を開始した。四十五歳以下の医学系を含む三研究領域の若手研究人材育成が、健常科学・医療融合関連を

湯治のタイミングとして、七日、十四日と一週間周期を推しているが、温泉療法刺激に対する脈拍立ち上がり時の血圧、末梢皮膚温などの機能性

湯治のタイミングとして、七日、十四日と一週間周期を推しているが、温泉療法刺激に対する脈拍立ち上がり時の血圧、末梢皮膚温などの機能性

いた。

湯治のタイミングとして、七日、十四日と一週間周期を推しているが、温泉療法刺激に対する脈

いた。